

敬慎院

敬慎院は、自然の美しさとそれまつわる歴史や神話で知られる七面山の山頂近くにある日蓮宗のお寺です。敬慎院までの登山は平均 3～4 時間かかります。曇りの日には霧が山を覆い、神秘的な雰囲気醸し出しています。

標高 1,740m の東向きで、富士山を一望できます。春分・秋分の時期には、ダイヤモンド富士と呼ばれる自然現象が見られます。富士山の真後ろに太陽が昇ると、山頂に太陽が到達したときに、山頂がダイヤモンドのように輝いて見えるというものです。

神仏習合

七面山は、日蓮が建立する以前から神道の聖地とされていました。そのため、仏教と神道の伝統が融合していることがわかります。そのため、仏教と神道の伝統が融合していることを、法事や建築、寺の装飾にも見ることができます。

その代表的な例が、門や入り口に吊るされているしめ縄です。しめ縄は、伝統的に神道の清めの儀式で使われていたもので、ここでは幸運をもたらす、悪霊を追い払うために使われています。また、注連縄は、敬慎院などの建物や地域を神聖な場所とするために吊るされることが多く、新築工事の際などにも吊るされています。

お寺での生活を体験する

敬慎院は日蓮宗の信者にとって重要なお寺です。多くの僧侶や信徒が定期的に山に登って修行に励んでいます。早朝の礼拝や富士山のご来光を拝みたい方のために宿泊施設も用意されています。予約をすれば誰でも宿泊できるので、日蓮宗の信者でもそうでない人でも、敬慎院での体験は欠かせないものになるかもしれません。

信仰の有無に関わらず、僧侶と同じようにお寺で一日を過ごすことができます。敬慎院の部屋、夕食、朝食、入浴、トイレは基本的なもので、食事は精進料理です。

また、日蓮宗の勤行にも参加することができます。

周辺の名所

敬慎院の裏手には、七面大明神の龍神が住んでいたとされる一の池があります。池の水面下で龍が動いているようなさざ波を見たことがあると言われていました。

一の池から 15～20 分ほど歩くと、奥之院、二の池があります。ここには、日蓮の弟子たちが龍神を見たとされる影嚮石と呼ばれる玉石もあります。